

## 「武道の原点を訪ねて」シリーズ その1



ご存知のように、ここ数年、中学校の保健体育において武道必修化が進められています。その目的は、武道の伝統文化を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることにあります。かわら版編集部では、これを機会に武道の原点を訪ねる新しい企画を立て、石塚美文先生にみんなで考えるためのネタを作ってくださいました。なぜ今、武道が必修化されることになったのか、みんなで考えてみませんか？みなさんのご意見を気軽に投稿してください。→→→ [info-sinsa@osa-kendo.or.jp](mailto:info-sinsa@osa-kendo.or.jp)

## 1. 根本的な問題点として、私が特に気になっている三項目

## ①日本人としてのモラルの低下

生活レベルの向上に相反して、色々な犯罪が低年齢化してきました。また街ではマンションが建設され便利になった反面、近隣との付き合いや絆が薄くなり、隣に誰が住んでいるのかもわからないといった弊害も生まれています。らしくという分別(ふんべつ)がありますが、分別以前のところで、何々らしくという言葉自体も使えない世の中になり、対人関係に欠かせない道徳の欠如も感じています。

少し例を挙げただけでもきりがないうえで、人としてのモラルが低下してきたと感じるのは私だけでしょうか。危機感を持ちたいものです。

## ②日本人気質の「美德」の欠如

美德とは、例えば真正情、質実剛健、質素儉約などが上げられます。

日本の国は周りを海で囲まれ、春夏秋冬と季節の変化に最も恵まれた風土と言えます。外国からの影響を受けながらも日本人独自の気質が生まれ、「日本文化」として育まれたものが『美德』ですが、時代と共に日本人の価値観が変化してきたのでしょうか。

## ③日本人の持つ「大和魂」が希薄に

大和魂とは武の三徳、智・仁・勇などと言われています。剣道をされている皆さんはご承知のことと思いますが、いにしえから受け継ぎ大切にしてきた「日本人の心」と言えます。これを取り戻そうと、社会の風潮も教育問題として提唱し、道徳的な観念を見直そうと武道の必修化が義務付けられたのだと思っています。

## 2. 武道の「本質・徳育」とは？

そもそも武道とは人を倒す技術に始まり、ひいては自分をまもることに始まった格技(格闘技)であり、その技術を学ぶものが大半でした。それが長い歴史の中で、江戸時代の平穏な世を経て土農工商の役割・身分が確立され、武士の表芸としての「武道」が、武だけを学んだのでは人として粗野で魅力のない浅い人間になると気付き、教養としての学問分野へと変化して行きました。

武という字は、「(ホコ)戈を止める」と書きます。武を

追及することによって「(人間)本来の強い内面的な心を養い」、その強さを外に出さず内に秘め、「教養のある奥ゆかしさ」を武士に求め、人格陶冶の道へと昇華されて行きました。この心こそが古来から大切にしている「日本人魂の原点」だと思います。

その魂の原点となるものが剣道の三徳であり、「智・仁・勇」を代表的な徳目として、「剣道の理念：剣道は剣の理法の修練による人間形成の道」につながる剣道本来の目的です。

## 3. それではその「三徳」についてお話しします

**智** 人が人間らしく生きていくうえでの智慧であり、その目となる慧眼「物事を見抜く洞察力」と心を養うことが「智」です。

**仁** にんべんに「二」で「ひと」とも読みます。人は誰でも自分が一番かわいいものですが、それだけでは自己中心的になり争いが絶えません。それを解消するにはお互いの思い遣りが大事です。惻隠の情といわれる哀れみの心のことです。

**勇** 読んで字のごとく勇気のことですが、単なる勇気ではありません。「義を見てせざるは勇なきなり」と言われるとおり、勇の基は「義」がなければなりません。義は物事の全てに道理があること、すなわち「正しさ」を指しています。すぐにカッとなって血気にはやることを「小勇」といい、道理にかなった勇気を「大勇」といいます。

この三徳を剣道で学ぶために武道が必修化になったのではないのでしょうか。

## 4. 「三徳」を学ぶために、日常的に心掛けるべきことは？

先師先達は心の在り方や技術の指導の中で、「正しさ」を説明するにあたって「自然に自然に」と説諭されています。これは剣道の道につながる「正しさの尺度」を言われたものと思います。形ある物は秤や定規で計測できますが、人の心は計測できません。人の手では変えられないものが自然であり、その自然から学んだものが「人の心を作り」「養い」「育み」そして「人の器」を作ります。

次号に続く

(大阪府剣道連盟副会長・剣道範士八段 石塚美文)

## 「この旗の下に」(部旗) シリーズ その1 (パナソニック EW 社)

剣道部にはその活動理念を簡潔に語る部旗が掲げられています。新シリーズはこれを訪ねる企画です。今回お訪ねしたのは、パナソニック株式会社エレクトリックワークス社(以下パナソニック EW 社)剣道部。同社剣道部総監督で大剣連理事の吉村信人さんにお話を伺いました。

### 1. 日本一を目標に、応援したくなる剣道部を目指す

1960年旧松下電工にて廣畑忠士先生が創部。以降企業スポーツとして会社支援を頂きながら強化を進め、1997年全日本実業団で男子初優勝。これまでに男女各5回日本一の戦績をおさめています。現在は結果、文武両道、社会貢献の三本柱で、勝って喜ばれるチーム、応援したくなる剣道部を目指して取り組んでいます。

### 2. 部旗「妙機」

2008年会社変革に伴い社名変更した際、様々な用具を刷新。長榮周作剣道部顧問(当時パナソニック電工社長)の発案で母校松山北高剣道部の「妙機」を使わせて頂く事になりました。使用にあたり同OB会にお伺いしたところ快諾頂き、私自身も同OB会として再び「妙機」を掲げることができた事を嬉しく思います。部旗、公式戦用手ぬぐい、剣道部ストラップ、剣道部公式HPなど様々なところで表示していますので是非ご覧ください。



### 3. 妙機の意味

学芸員ではございませんので正誤の自信はありませんが、見聞きした事によりますと、

「目の前のチャンスを確実に掴む。また、目の前にチャンスが訪れた時、確実に掴めるよう日々の努力を惜しまない」

「実践の攻防において、ひとつ誤れば形勢逆転する厳しさがある。攻防のタイミングや方法を間違えないよう己を磨く努力をする」

「努力や能力では説明できない絶妙な機会が訪れる時がある。その機会を確実にものにするための努力を怠らない」

まさに剣道を学ぶものとして大事な事の一つだと思います。また剣道のみならず、日常生活や仕事、会社経営においても重要な事だと最近少し理解できました。

### 4. 松山北高剣道部「妙機」

ご了承いただきました松山北高剣道部の妙機について触れたいと思います。1966年同校の剣道部顧問佐伯蔵先生が、同じく教鞭を執られていた書家澤田大暁先生に依頼し揮毫頂いたとの事。書体も変化することなく50年以上たった今も当時のまま受け継がれています。弊社の部旗書体は、長榮周作剣道部顧問に揮毫頂いたものになります。



※前列中央は大剣連顧問作道正夫先生(R2初稽古)


### 5. 最後に

パナソニック EW 社剣道部は、この妙機の教えを実践し後進に伝え続ける所存です。加えて剣道のみならず日常生活、仕事にも取り入れ豊かな人生の歩みと剣道発展に貢献して参ります。

この度ご協力いただきました松山北高剣道部、同OB会、愛媛県習字教育研究会の皆様にご感謝の意を表して終わりにいたします。ありがとうございました。

(かわら版編集 WG)

**パナソニック EW 社公式 剣道部**

<p>HP</p> 	<p>ロゴマーク</p> 	<p>Instagram</p>  <b>PANASONIC.KENDO</b>
--	--	--

## 『第2回剣道塾』開催



R4年度の第2回目を7月31日(日)平野スポーツセンターで行いました。  
大阪府剣道連盟では、昨年から子供たちに生涯剣道につながる剣道の基本と楽しさを  
知ってもらうため、「剣道塾」を始めました。応援よろしくお願いします！



午前の部は、9時から小学生対象に、低学年、高学年、初心者（面付なし）、同（面付けあり）、級なし、3級、2級、1級と、10グループに分かれて男子108名、女子45名の参加者で、楽しむ剣道に結びつく剣道塾が開催されました。初心者には、礼儀作法、楽しむ剣道、足さばきから防具の着装、そして上級者には正しい打突、幅広い技を身に付けて有段者を目指し、更に怪我の予防と安全など受講生一人一人に寄り添った指導が行われました。

また午後の部は、13時から中学生対象に、男子、女子、初心者、日本剣道形、審判法、応じ技、試合等男子73名、女子51名が10グループに分かれて、充実した指導が行われました。基本打突、足運び、正しい着装から攻めと応じ技、相手のスキを作る攻め方など受講生の技量に応じた幅広い指導を心掛けて、剣道を楽しんで生涯剣道に結びつく剣道塾となりました。

今回は、大阪教育大学の太田先生、剣道部の皆さん（36名）と地区普及委員の先生方のご協力の下で、参加者の技量に応じた指導、大学生による模範稽古と日本剣道形の見学、約1時間の合同稽古、そして最後に質問コーナーを設けて閉会となりました。

9時	小学生受付
9時30分	開会式
9時40分	全体指導
10時10分	10グループに分かれて指導
10時50分	大学生模範稽古、剣道形見学
11時	合同稽古
12時	質問コーナー
12時10分	閉会式

13時	中学生開会式
13時40分	全体指導
14時10分	10グループに分かれて指導
14時50分	大学生模範稽古、剣道形見学
15時	合同稽古
16時	質問コーナー
16時15分	閉会式



<竹刀で新聞紙切り>

特に「竹刀による新聞紙切り」や丸めた新聞紙をボール状にして投げ、それを上手に打突するという「新聞紙打突」などで競い合い、子ども達には普段あまり道場では見られない満面の笑顔と嬉々とした歓声が上がっていました。

（大阪府剣道連盟 少年委員長 角谷 豊）



大阪教育大の皆さん「ありがとう！」



元気な小学生の皆さん  
「これからも楽しく剣道  
を続けてね！」



# 少年剣道の甲子園 \(\^o^)/ワイ、ワイ

9月18日(日)、第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会がおおきにアリーナ舞洲で3年ぶりに開催され、中学生の部で大阪Aチームが見事準優勝！小学生Bチームもベスト8まで勝ち上がりました。



第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 プログラム表紙絵  
「チームで勝つ、自分に勝つ」安井日菜子 画

- |  |  |
|--|--|
| <p>&lt;中学生&gt; A チーム</p> <p>監督 吉川 和也</p> <p>先鋒 杉本 ゆら</p> <p>次鋒 石田 菜桜</p> <p>中堅 三田 洸太</p> <p>副将 椛島 悠樹斗</p> <p>大将 小城 朔太郎</p> <p>補欠 伊藤 寛夏</p> <p>補欠 石田 紘世</p> | <p>B チーム</p> <p>監督 藤井 勇太郎</p> <p>先鋒 山本 ひより</p> <p>次鋒 大前 瑠華</p> <p>中堅 宮地 仁毅</p> <p>副将 松村 太樹</p> <p>大将 山本 颯和</p> <p>補欠 橘 美咲希</p> <p>補欠 柗座 公正</p> |
|--|--|

- |  |   |
|--|---|
| <p>&lt;小学生&gt; A チーム</p> <p>監督 高科 浩之</p> <p>先鋒 湯川 颯介</p> <p>次鋒 久田 敬士朗</p> <p>中堅 森 智輝</p> <p>副将 一条 龍樹</p> <p>大将 近藤 千廣</p> <p>補欠 中山 明泉</p> | <p>B チーム</p> <p>監督 桂木 厚治</p> <p>先鋒 乾 透真</p> <p>次鋒 酒井 花菜</p> <p>中堅 木下 大輔</p> <p>副将 並木 寧々</p> <p>大将 長榮 流星</p> <p>補欠 福田 稜太</p> |
|--|---|

みんな、よく頑張りました！



## 「道歌を訪ねて」～シリーズ第三弾～

「道歌」は道の極意を簡潔に言い表し、七五調で覚えやすいところから「剣道道歌」をシリーズで取り上げて紹介しています。皆さんからの投稿をお待ちしています！

今年は9月10日が中秋の名月。自宅の窓から生駒山の上方にかかった真ん丸のお月様を見ながら、あまりに綺麗だったので昔習ったこんな道歌を思い出しました・・・「観の目強く、見の目弱く」

写メを撮ったらお月様の右下に UFO が？写り込んでいました（「拡大してみて」編集 WG）ところで「写メ」って？今や死語だそうです・・・



出でぬ間の  
山の彼方を思いやる  
心や先に  
月を見るらん  
柳生連也齋